謹んで震災のお見舞いを申し上げます

このたびの東日本大震災に被災された皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々とご遺族の皆様に対して深い哀悼の意を表します。

今回の震災は、我々の予想を遥かに上回る大津波、それに伴う原子力事故などによって、広範な地域で大きな被害が出ており、被災地域にお住まいの卒業生をはじめとして、卒業生・在学生・教職員のご家族・ご親戚など、学園関係者の中にも被災された方が多数いらっしゃることと存じます。被災された皆様が、一日も早く心休まる生活を取り戻せますことを祈念いたしますとともに、学園としてできる限りの支援を続けて参りたいと存じます。

学園では、学生や教職員の有志による募金活動が行われている他、ご家族が被災された学生へのサポートにも取り組んでおります。今後も、このような活動を継続的に続けて参りますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

学校法人樟蔭学園
理事長　森眞太郎

学生・生徒・教職員有志による支援活動について

学園各校では、学生・生徒および教職員の有志による義援金募集活動を行い、集まった金額を各種の支援団体へお届けしております。また、大学児童学部では「被災地の子どもたちに本をとどけよう!」プロジェクトを発足させ、NPO法人を通じて被災地の子どもたちに本を送る活動を行っています。

このような支援は、今後も継続して参りますので、皆さまのご協力をお願い申し上げます。

樟蔭学園報　くすのき　Vol.166
2011年6月3日／学校法人樟蔭学園　広報室　〒577-8550　東大阪市菱屋西4-2-26　TEL:06(6723)8152　E-mail:koho@osaka-shoin.ac.jp

くすのき

樟蔭学園報 Vol.166
大阪樟蔭女子大学／大学院・大阪樟蔭女子大学短期大学部・樟蔭高等学校・樟蔭中学校・大阪樟蔭女子大学附属幼稚園

5月5日(祝) 東大阪市立市民会館にて開催された「身体表現コース開設記念発表会」の様子。ダンス部・バトントワリング部・新体操部、そして吹奏楽部や幼稚園による舞台演技を披露し、たくさんのお客様から、大きな声援と拍手をいただきました。

はばたけ、知性。

NEWS●
管理栄養士国家試験合格率が大阪府下第1位に!…9
高等学校がNHKの番組で紹介されました!……9

レポート●[芸能史の曲がり角〜大正100年を迎えて〜]森西真弓… 1
SHOIN LABO●[人生設計に欠かせないライフプランニング]越智砂織 ‥3
こもれびの窓●劇団四季の俳優として活躍中濱田恵里子…… 5
CLUB NAVI●高等学校家庭部……7
はぐくむ心●中学校・高等学校教諭杉山秀子…… 7
新任者の挨拶●異動・退職情報…… 8
INFORMATION●参加イベントのお知らせ……13
we are Now●各校行事など …… 15

題字:大学　宮崎彰夫教授(日展会員／雅号・葵光)

レポート

東大阪市「市内5大学合同公開講座」
「芸能史の曲がり角 ～大正100年を迎えて～」
森西真弓氏（本学 学芸学部 国文学科 教授）
2011年2月2日（水）開催

関西発祥の芸能文化だからこそ関西人の手で支え、守り、次の時代に伝えたい

森西真弓

【もりにし・まゆみ】1955年、京都市生まれ。京都女子大学文学部を卒業後に、雑誌「上方芸能」編集部に入社。編集次長、編集長を経て、現在は編集代表を務める。大学教員としては、池坊短期大学助教授、立命館大学教授を経て、2009年より大阪樟蔭女子大学国文学科教授に就任。文化庁文化審議会委員、独立行政法人日本芸術文化振興会評議員・同評価委員などを務めるほか、上方芸能の専門家としてNHKの「芸術劇場」「芸能花舞台」などの番組にも出演。上方芸能に関する新聞連載や著書なども多数あり、1993年に「咲くやこの花賞」（大阪市）、1995年に「歌舞伎学会奨励賞」を受賞している。

大阪が誇る伝統芸能「文楽」。関西で生まれ全国で愛される「宝塚歌劇団」。生まれた時代も背景も全く異なるこの二つの芸能ですが、実は「大正」という時代が大きな影響を及ぼしていました。今回は、東大阪市の市内5大学合同公開講座において、森西教授が講演された内容を紹介させていただきます。

大正時代の15年間がもたらしたもの

早いもので、平成に入ってもう23年目を迎えました。平成元年に生まれた子どもが、もう大学を卒業する年齢になっていて、月日が経つのは早いものだなと感じます。

そして、今年は大正元年から数えてちょうど100年目にあたる年です。大正という時代は、明治と昭和という二つの激動の時代に挟まれて、いつも忘れられがちですが、本当はとても重要な時期にあたります。明治維新の後、日本は「文明開化」をスローガンに国を挙げて近代化を図りますが、大正時代には近代化がほぼ実現し、それまでの日本文化にも大きな影響を与えた時代です。大正時代はたったの15年間ですが、日本の芸能にとって大きな曲がり角を迎えた時代と言えます。

本日は、関西発祥の芸能を中心として、この時代の芸能文化の変化についてお話しさせていただきます。

「女優」の登場と「宝塚歌劇団」の誕生

女性が少しずつ芸能の世界に進出してきたのが大正時代です。それまでは、女性が芸能人になることは良くないことだとされていました。皆さんもご存知の歌舞伎には約400年の歴史がありますが、もちろん役者さんは男性ばかりです。

日本の演劇史に、女優が現れるのには、明治維新の後30年40年という時間が必要でした。川上音二郎という人物が創設した劇団が、アメリカやヨーロッパで公演した際の話です。最初は当たり前のように女形として男性が女性役を演じていましたが、海外のお客さんは、男性が女性役を演じていることを気味悪がりました。そこで、急きょ、音二郎の妻（貞奴）が舞台に上がることになったのですが、これが日本人で初めての女優です。その後、川上夫妻が日本国内で女優を養成するなど、少しずつ女優が登場しはじめますが、良妻賢母が理想とされていた当時では、女優はスキャンダラスな職業として、まだまだ世の中から見下されていたのが現実です。

そのような時代に、少女ばかりの宝塚歌劇団を生みだしたのが小林一三です。小林は、阪急電鉄の創業者であり、電車の乗客を増やすために、沿線の住宅開発や、梅田でのデパート建設などの様々な工夫を図って次々と成功を収めます。そして、その工夫の一つとして、温泉地であった宝塚に室内プールを作りました。当時の温泉地は病気の療養・静養に行く場所というイメージが強かったのですが、そこに楽しめるアトラクションを作って、電車に乗って遊びに来てもらえる場所にしようと考えたのです。しかし、この室内プールの事業はなかなかうまくいきません。小林は、せっかく作ったプールを何とか活用したいと考え、大正2年、清純な乙女だけによる宝塚歌劇団を創設して、宝塚新温泉へのお客さんを集めようとしました。

まだまだ、女性が芸能人になることは良くないことだと思われていた時代に、宝塚歌劇団が登場したことは、とても斬新な出来事だったのです。

芸能史を一変させたニューメディアの登場

大正はニューメディアが到来した時代でもあります。明治の終わり頃に映画（活動写真）が生まれ、大正にはレコードが生まれました。落語家の桂春団治や漫才師の砂川捨丸が、テレビやラジオのない時代に全国的な人気を得たのは、レコードの存在が大きかったのです。そして、大正の終わりにはラジオが登場します。このようなニューメディアの登場によって、芸能という文化は大きな大きな曲がり角を迎えることになります。

これらのニューメディアが登場するまでは、演じる人と観客が同じ空間に一緒に居て初めて成立していました。しかし、映画の登場により、演じる人は撮影所で演技を行い、観賞する人は全国のどこの映画館でも鑑賞できるようになったのです。レコードやラジオにいたっては、外出しなくても家の中で楽しむことができるようになりました。

森西教授が編集代表を務める雑誌「上方芸能」と数々の著書

一方で、歌舞伎や文楽といった庶民に支えられてきた芸能は、沢山のお客さんに見に来ていただいて初めて成立するものです。この時代、ニューメディアの登場に加えて、新派や新国劇などの新しい演劇に人気が集まり、伝統芸能はとても厳しい時代を迎えるようになりました。

また、この当時は伝統芸能に対する国からの支援がなく、そのまま放っておけば、文楽などの多くの伝統芸能が無くなってしまっていたかもしれません。しかし、多くの民間人がこれらの時代を支えました。サラリーマンを退職後に雑誌「上方」を発行し、様々な上方文化を復興しようと努力した南木芳太郎や、雑誌「大阪人」を発行して、文楽を中心とした上方芸能の普及を図った木谷蓬吟、毎日新聞を退職後に「演芸月刊」という雑誌を発行し、文楽や歌舞伎などの普及を図った石割松太郎など、多くの民間人が伝統的な芸能を支えたのです。

関西で生まれた文化を関西人の手で守りたい

伝統や文化を守るためには国や行政の支援がどうしても必要です。文化庁の予算は少しずつ増えているようですが、財政難などの理由から地方自治体では予算が削られているのが現状です。また、私たち市民がこれらの文化を支える姿勢が必要です。

宝塚歌劇団や文楽は、関西から発信されている文化です。しかし、最近では両者とも東京での人気が高く、チケットがなかなか取れないのに対して、大阪では劇場の客席が埋まらないことも多いです。もちろん、大阪の方が会場の規模が大きいことや、公演期間が長いことなどが原因の一つですが、大阪の皆さんにもっと劇場へ足を運んで欲しいと思います。文楽にしても宝塚にしても、関西よりも東京で人気を呼んでいるのは、関西人としては少し残念な気がします。関西発祥のこれらの芸能を、関西の人たちにもっと支えていって欲しいと思います。

大正から100年目という節目を迎えるにあたって、困難な時代を乗り越えてきた関西発祥の文化の数々を守るために、これからも多くの皆さまに支えていただけることを願っています。

これからの予定

KOSAKA

健康栄養学科 公開講座

「健康食品とは? ―健康食品についての知識を深め、意識を高めよう―」
日　時：**6月18日（土） 14:00～16:00**
講　師：**山﨑 裕康氏**（神戸学院大学 薬学部教授）
受講料：1,000円（当日支払　※生徒・学生は学生証提示で無料）
お申し込み：必要〔締切：6月15日（水）〕

上記講座は小阪キャンパス内にて開催いたします。
講座に参加を希望される方は、大学ホームページまたはハガキ・FAX・メールにて、
①住所②氏名（ふりがな）③電話番号④参加希望講座名を明記の上、お申し込みください。
〒577-8550 東大阪市菱屋西4-2-26 大阪樟蔭女子大学 学術振興課（小阪キャンパス）
TEL：06-6723-8237　FAX：06-6723-8348　E-Mail：hp-gakujyutsu@osaka-shoin.ac.jp

公開授業

「消費者行動の心理学 ―企業のマーケティング活動から消費者の心と行動を考える―」
日　時：**7月2日・9日・16日（土曜全3回） 10:40～12:10**
講　師：**永野 光朗氏**（本学 ビジネス心理学科 教授）
受講料：3,000円（全3回）
お申し込み：必要〔締切：6月10日（金）〕

上記講座は小阪キャンパス内にて開催いたします。
（1）講座に参加を希望される方は、大学ホームページまたはハガキ・FAX・メールにて、
①住所 ②氏名（ふりがな） ③電話番号 ④年齢・性別 ⑤参加希望講座名を記入の上、お申し込みください。
（2）申込締切後、講座の受講が決定しましたら、受講案内と振込依頼書をご送付いたします。
（3）受講案内と振込依頼書がお手元に届きましたら、案内をもとに期日までに受講料をお振込みください。
※振込依頼書の左側「振込金受取証（本人保存用）」は、入校時に門衛へ提示していただく「入校証」と、「仮受講証」を兼ねていますので、当日に必ずご持参ください。
〒577-8550 東大阪市菱屋西4-2-26　大阪樟蔭女子大学 学術振興課（小阪キャンパス）
TEL：06-6723-8237　FAX：06-6723-8348　E-Mail：hp-gakujyutsu@osaka-shoin.ac.jp

SEKIYA

児童学部　夏の公開講座

「小学校外国語活動の課題とその解決策について～指導・評価・小中連携のあり方等～」
日　時：**7月24日（日） 11:00～12:30**
講　師：**菅 正隆氏**（本学 児童学科教授）
受講料：無料
お申し込み：必要〔締切：7月20日（水）〕

心理学部　夏の公開講座

「近未来を生きる子ども ―子どもをどう理解し、何を、どう育てるか―」
日　時：**7月24日（日） 14:00～15:30**
講　師：**川合 春路氏**（本学 発達教育心理学科教授）
受講料：無料
お申し込み：必要〔締切：7月20日（水）〕

「心理学と福祉のお仕事 心理学部で取得する精神保健福祉士という資格について」
日　時：**8月21日（日） 13:30～15:00**
講　師：**西 友子氏**（本学 臨床心理学科講師）
受講料：無料
お申し込み：必要〔締切：8月19日（金）〕

「アニメから見る思春期の深層心理学」
日　時：**9月23日（金） 13:30～15:30**
講　師：**坂田 浩之氏**（本学 臨床心理学科 准教授）
受講料：無料
お申し込み：必要〔締切：9月20日（火）〕

上記各講座は関屋キャンパス内にて開催いたします。
各講座に参加を希望される方は、大学ホームページまたはハガキ・FAX・メールにて、
①住所②氏名（ふりがな）③電話番号④FAX番号⑤参加希望講座名を明記の上、お申し込みください。
〒639-0298 奈良県香芝市関屋958 大阪樟蔭女子大学 学術振興課（関屋キャンパス）
TEL：0745-71-3168　FAX：0745-71-3141　E-Mail：s-gakujyutsu@osaka-shoin.ac.jp

上記の講座はHPからもお申し込みいただけます。http://www.osaka-shoin.ac.jp

越智砂織

【おちさおり】
大阪樟蔭女子大学 学芸学部 ライフプランニング学科 准教授
2008年神戸大学大学院法学研究科博士後期課程 単位取得満期修了。博士（法学）。税理士。
徳島文理大学短期大学部専任講師、千里金蘭大学准教授を経て、2009年4月より本学准教授。

長い人生を「よりよく生きる」ために、大切な知識を身につける

ライフプランニング学科のキャッチフレーズは「よりよく生きる」です。ライフプランニングとは、人生設計を立てること。長い人生には、就職、結婚、出産、子育て、家を建てる、老後の生活、さらに病気での入院など、いろいろな出来事があります。その自分の人生を現在から未来まで見渡して、賢くライフプランを立てて、「よりよく生きる」知識を身につけるのが当学科の目的です。今回は越智砂織准教授にお話を聞きました。

これから必要になる3大資金は「教育」「マイホーム」「老後」資金

人生に重要なのは夢や希望です。しかし同時に、それを実現させるためには、お金の知識が必要不可欠です。当学科では資金形成と運用、税金、年金、保険などの知識を中心に、仕事に活かせるファイナンシャル・プランナーや簿記の資格取得を目指すとともに、自らの人生と家庭に必要な経済知識を学びます。

ファイナンシャル・プランニング(FP)技能検定（国家資格）と簿記検定（民間資格）は、20〜30代の働く女性の取りたい資格の中で常に上位にランクされており、金融、保険、不動産などの幅広い業界で評価されています。FP技能検定は、資産運用に関しての知識があることを示し、就職にも有利です。また就職した業界においてさらにステップアップした資格を取るための基礎知識でもあります。たとえば宅地建物取引主任者（宅建）、税理士、簿記2級など多くの資格につながります。

当学科では、FP技能検定合格のための基礎知識を身につける授業を行うとともに、毎年9月に行われるFP技能検定に向けて夏期特別講座を開講しています。2010年までに28名の学生が3級を取得しました。

家庭生活においてもライフプランニングの学びは重要です。人生の3大資金は「教育資金」「住宅資金」「老後資金」といわれています。

子どもが生まれると7年後には小学校入学、中学、高校、さらに大学で学ぶためにも資金が必要となってきます。子どもを出産した時点でそのための資金プランをしっかり立てることが必要です。

家を買うには、取得価格の10%程度を税金などの諸経費として考え、頭金20%と諸経費を含めた購入価格の30%を自己資金で用意する必要があります。住宅の取得は最も高額な買い物ですから、十分な事前の計画や準備が求められます。

老後について、学生はリアリティが薄いようですが、女性の平均年齢が86.44歳（2009年）という現代ではリタイア後のライフプランは大変重要なことなのです。たとえば公的年金は、老齢基礎年金の受給資格期間（25年）を満たす人が65歳から受け取ることができますが、満額（792,100円）支給されるには、480カ月（40年）保険料を納付していなければなりません。一方で、公的資金だけで老後の生活が安泰という時代でもありません。個人年金や貯蓄、資産運用など、老後をゆとりあるセカンドライフとするためにそれを見据えた収支計画を立てておくことが重要です。

親に勧められ、税理士になるつもりで税金の勉強を始めた

私の研究テーマは租税、簡単にいうと税金、専門は所得税法です。

税を学ぶきっかけは、会社を経営していた父が、税の知識がなかったがゆえに税金がらみのトラブルに巻き込まれ、「子どもの誰かに税金の知識をつけさせよう」と思ったことに始まります。姉と兄は既にほかの分野を目指しており、まだ中学生だった私に自羽の矢が立てられ、両親から「税理士になりなさい」と洗脳されたのです(笑)。そして郷里愛媛の松山大学経営学部に進み、税の勉強をすることになりました。また税理士の資格取得のために専門学校にも通いました。

同時に友人のご両親の税理士事務所でアルバイトをして実務の勉強をさせてもらいました。専門学校で税理士資格のための知識を、アルバイトではその知識をもとに実践をさせてもらいました。余談ですが、学生時代にアルバイトをするなら将来につながるものがよいと思います。これもライフプランのひとつだと思います。

大学卒業後、アルバイトを続けながら大学院に進み修士課程を修了。すると徳島文理大学短期大学部から声がかかり、25歳にして専任講師として教えることになったのです。この時点での目標はあくまで税理士でしたが、教鞭を執っているとさらに深い知識が必要であることに気づき、27歳から神戸大学大学院法学研究科博士課程で研究を始めました。大学院在学中に税理士資格を取得しましたが、この頃から税に関する研究がより面白くなりました。税理士は実務の面から税にアプローチしますが、研究者は法理論から税にアプローチします。理論があって実践がある。だから理論を徹底的に研究してみたいと思うようになりました。その後、千里金蘭大学で教鞭を執りながら2008年には博士（法学）を取得しました。

税法の研究は“社会をよくするため”そして、これが面白い

振り返ってみると、これまで大学教員として忙しい日々を過ごしてきましたが、今でも一貫して

「ファイナンシャル・プランニング技能検定」の対策講座

越智先生と学生

いるのは「税の研究」です。

「税」というと、普通の人には堅苦しい、計算が複雑で難しいと思われがちなのですが、実は私たちの生活の中で税の知識はもっとも重要です。私たちは生まれてから死ぬまで（死んでからも?）税と関わって生きていかなければならないのです。

たとえば、ビジネスウーマンとして働き会社を退職したとします。仮に年収が500万円で退職金を100万円もらいました。会社員の間は所得税が源泉徴収されるので、手取金は自由に使うことができます。ところが、住民税は、仕事を辞めた翌年に納付することになります（前年所得課税）。その金額を30万円と想定すると、たとえ翌年仕事をしていなくても納税通知がきます。もし退職金を使ってしまっていると、かなり困ってしまいます。しかしこのような税の知識があれば、30万円を税金用にキープしておくことができます。

その他、学生がアルバイトをする場合、年間103万円以内であるならば所得税が課税されず、なおかつ親の扶養家族になることができます。つまり、アルバイトをするにしても税を考慮に入れたプランニングをすることができるのです。

このように、現代の経済社会において、私たちは取引後の税を念頭におきながら経済取引を行わなければならず、税と無関係に暮らしていくことはおよそ不可能であるといってよいでしょう。

私の研究テーマは所得税法で、とりわけ「所得税法における損失」「所得分類における雑所得のあり方」を研究しています。たとえば給与所得者が副業で得た所得が10万円あったとして、それを得るために100万円の損失を出している場合があります。これが事業者ならば損失を必要経費として控除することができるのですが、副業の場合は10万円までしか認められません。このような控除される損失とされない損失のボーダーラインについて研究しています。また、現行の所得税法は、所得を10種類に分類しているのですが、雑所得は他の9種類のどれにも該当しない所得を雑所得としています。私は、その雑所得に焦点を当て、その意義を再構築し、新たな所得分類のあり方を探っています。

一般の人にはとっつきにくいと思われがちな税の研究ですが、実はなかなか奥が深く面白い世界なのです。

そんな研究の面白さと厳しさを教えてくれたのは、神戸大学で指導教授だった佐藤英明先生です。指導の当初「私が褒めたらそのときは、見捨てたときだからね」とおっしゃって、博士号を取るまで褒めて下さいませんでした。しかしながら厳しくされたからこそ、今の私があり、ひとかどの研究者としてやっていけるのだと思います。

私もゼミの学生に同じことを言っています。あるとき、優れたレポートを書いた学生をうっかり褒めたら「先生、私を見捨てないでください」と泣かれて困ったことがありました(笑)。

これからは自己責任の時代。「よりよく生きる」ためには、女性の暮らしに必要な知識、家庭経営に欠かせないノウハウ、ビジネスに役立つスキルを習得することが大切です。私も自分自身のライフプランをもとに、学生とともに勉強していきたいと思います。

こもれびの窓 24

芸術に理解のある樟蔭の校風が好き 高校卒業と同時に『劇団四季』に入団

5歳でクラシックバレエを始めた濱田恵里子さんが中学から樟蔭に進んだのは、芸術に理解のある校風が好きだったから。そして高校2年生の夏から1年間パリにバレエ留学。本場のバレエに刺激を受けるとともに、美術館巡りを楽しんで芸術への視野を広げます。その下地になったのは、能や絵画の鑑賞など樟蔭の多彩な学校行事で養われた感性でした。そして、高校卒業後は、劇団四季の俳優として活躍しています。

濱田恵里子

はまだ・えりこ
俳優／劇団四季

大阪市福島区出身
2008年3月樟蔭高等学校卒業

ものごころつく前から踊ることが好きで、
5歳からバレエのレッスンを始める。
母親が劇団四季のファンで、
子どもの頃からよく一緒に観に行った。
しかし、その頃はまさか自分がステージに
立つとは思いもしなかった。
高校2年生での留学経験で精神的にも鍛えられる。
性格がポジティブになったのは、
外国では自分から動かないと何もできないから。
高校3年生のお別れ会では、有志と一緒に
コスプレでアニメソングのプリキュアを歌い踊る。
2008年4月に劇団四季の第48期研究生となり、
劇団四季の本拠地のある横浜でレッスン。
初舞台は『むかしむかしゾウがきた』。
以後、『ミュージカル李香蘭』『夢から醒めた夢』
『アイーダ』『人間になりたかった猫』に出演。
今回の大阪公演は2度目の『アイーダ』。
今も交流のある樟蔭の先生も、
舞台をよく観に来てくれている。

クラスメイトと踊り燃えた、思い出の「青春の躍動」

芸術への視野を広げた 高校2年生のフランスバレエ留学

現在、大阪四季劇場で公演中の『アイーダ』に出演している濱田恵里子さんは、樟蔭高校3年生の夏に劇団四季のオーディションに合格して今年で4年目。すでに多くのステージで活躍されています。

5歳でクラシックバレエを始めた濱田さんは、バレエ教室の先輩から「バレエを続けるならいい学校だよ」と聞き、樟蔭中学校に入学しました。入学式では新入生を代表して答辞を読み、週5回レッスンに通うほどバレエに打ち込みながらも、中学校、高校を通じて成績は常にトップクラス。

「樟蔭はベストの選択だったと思います。芸術やスポーツに理解がある校風で、先生も励ましてくださるし、どの学年でもクラスメイトに必ずバレエを習っている人がいました。また私は所属しませんでしたが、バトントワリングやダンス、新体操などクラブ活動も盛んで、友達同士で頑張ったことや悩んでいることなど、いろんなことをお互いに話せる開放的な雰囲気が大好きでした」

そして高校2年生の夏、濱田さんは1年間休学してフランスにバレエ留学。パリ郊外のバレエスクールで寮生活を経験しました。

「留学は、バレエを志した頃からの夢でした。休学するのは勇気が要りましたが、先生方は『しっかり頑張ってきなさい』と、快く送り出してくれました。フランスでの暮らしは、習慣の違い、言葉の壁など、大変なこともありましたが、それ以上に得るものもたくさんありました。いちばん大きかったのは、スクールでクラシックだけでなく、コンテンポラリーやネオクラシックバレエのレッスンも受けたこと。それまでクラシックしか踊ったことがなかった私は、現代的な表現の魅力にふれることで視野が大きく広がりました。150年の歴史を持つパリ・オペラ座でのバレエを観たことも感激でした。またルーブルやオルセーなど美術館巡りも休日の楽しみでした。このようにいろいろな芸術を楽しむことができる下地は、樟蔭の学校行事で能や演劇、絵画を鑑賞する機会でつくられたのだと思います」

帰国したのは翌年の夏。同期入学の友達は3年になっていましたが、濱田さんは2年生としての再スタートでした。

「うまく溶け込めるか心配だったのですが、まったく問題なし。一つ年下のクラスメイトとすぐに打ちとけて楽しい学園生活を送りました。こんなところも樟蔭のおおらかな校風ゆえなのでしょうね」

そしてその秋、劇団四季のミュージカル『オペラ座の怪人』を母親と一緒に観に行った濱田さんは、留学前に観た時と、自分の劇団四季の舞台への感じ方が変わったことに気づきました。

「以前はただ観客として楽しんでいたのに、観ているうちに、“あのステージに立ちたい”と強く思うようになりました。フランスでいろいろな刺激を受けたことで、躍動感にあふれ心に強烈に訴えてくる劇団四季の舞台の魅力に目覚めたのだと思います」

劇団四季への入団の決定後 「青春の躍動」で大活躍

そして高校3年生の7月、劇団四季のオーディションを受けました。当時の試験は、ヴォーカル、クラシックバレエ、ジャズダンス、演技の4部門のなかから得意なものを選んで応募するシステムで、濱田さんはバレエの実績をもとにエントリーしました。

「まずは書類選考なのですが、バレエ部門とはいえ、履歴書とともに歌のテープを送らなくてはなりません。でも歌には自信がありませんでした（笑）。音楽の植野郁子先生に相談すると、『それでは特訓しましょう』と毎日、放課後に発声の仕方から歌の指導までをしていただき、なんとか録音テープをつくって送りました」

書類選考にパスし、予選、本選を勝ち抜き合格。そのオーディションの応募者は1,200名、選ばれたのは30名という狭き門でした。

「合格の知らせは飛び上がるぐらいにうれしいものでしたが、悩みもありました。劇団四季への入団は、同時に大学進学を諦めることだったのです。当時は、たぶん今回は合格しないけれど、まず1回は受けてみよう、駄目でも大学に入ってから再度挑戦しようという気持ちだったのです」

しかし決断しなければなりません。出した結論は、“勝ちとったこのチャンスを、今は活かそう”、というものでした。

「決断したら迷いはありませんでした。残り少ない高校生活を思う存分充実させました」

体育祭のメインイベント「青春の躍動」では、トランプの赤と黒の衣装を身につけたグループの対立と和解を通じて友情を表現したダンスを踊り、とても好評でした。

劇団四季の研究生になったのは2008年4月。1年間の研究生を経て、これまで6公演でキャスティングされています。

「劇団四季の俳優は、常にベストのパフォーマンスを求められます。“演技に慣れ、だれ、崩れ＝去れ”という厳しい教えのもと、成長のない人間は辞めざるを得なくなります。しかし、この厳しさこそが劇団四季を最高の劇団にしている原動力なのです。先輩たちもひたむきに努力をしている中で、私も自分を一歩でも成長させるために、日々努力を積み重ねています。『アイーダ』のアンサンブルにキャスティングされたのは今回の大阪公演で2回目ですが、いろいろな役を演じる楽しさがあり、やればやるほど俳優という仕事の奥深さと難しさを感じます。でもその決して到達することのない難しさこそ、私の望むところです。今後も、様々なジャンルの歌やダンスにチャレンジしていきたいと思います」

劇団四季“永遠の愛の物語” ミュージカル『アイーダ』大阪公演上演中!

撮影者・千葉雅俊 ©Disney

日本演劇史上初の“関西発信ロングランミュージカル”である『アイーダ』が6年ぶりに大阪に凱旋し、ただ今大阪四季劇場（梅田・ハービスPLAZA ENT 7階）で上演中です。

古代エジプトを舞台に、国々の権力闘争に巻き込まれ、引き裂かれていく恋人たちの悲恋を描いた世界最古のラブストーリー『アイーダ』。これまで多くの芸術家が魅了され、このモチーフから様々な作品が創作されています。ミュージカル『アイーダ』は、この古典的なストーリーを時空を超えて現代に結び付けることで、より現代人に感動を与える珠玉の作品になりました。

始まりは現代ニューヨークの博物館エジプト展示室。一組の男女が古代の埋葬室に引き込まれるように魅せられ、アムネリスの像に誘われ、古代エジプトにタイムスリップ。そしてエジプトの将軍ラメダスを軸に、許婚の王女アムネリス、そしてヌビアの王女アイーダを巡る悲しくも切ないラブストーリーが展開されます。

美しくロマンチックな楽曲は、『ライオンキング』『エビータ』でトニー賞を受賞したスーパーシンガーソングライターのエルトン・ジョンが作曲を担当し、作詞は『ジーザス・クライスト＝スーパースター』『エビータ』を大ヒットさせたティム・ライスが担当しています。

撮影者・中島仁菜 ©Disney

卒業生の方々のご活躍の様子をお知らせください。

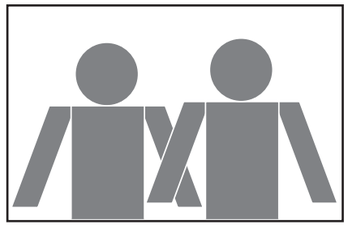
さまざまな分野でご活躍されている卒業生の情報をお寄せいただき、みなさまのお力をお借りして、この「こもれびの窓」で幅広い卒業生の姿をお伝えしていきたいと思います。
身近でご活躍の卒業生の様子をぜひとも樟蔭学園広報室までお知らせくださいますよう、お願いいたします。●TEL 06-6723-8152●FAX 06-6723-8268

CLUB NAVI 9

高等学校

家庭部

今回は高校家庭部を代表して、部長の●●●●さん（3年秋）、副部長の　▲▲▲▲さん（3年夏）にインタビューしました。



左より部長の●●さん、副部長の▲▲さん

家庭部は現在、2･3年生で部員が16名。週4回ほど調理実習室を利用して活動しています。部で所有している道具に限りがあるため、少人数で各学年ごとに分かれての活動です。バレンタインなどのイベント時には、部員以外にも参加を募って、一緒にお菓子作りなどを実施。また、学校見学に来た他校の中学生が体験実習をした際には、部員が指導を担当したりもしました。

Q 家庭部では今までどんなものを作りましたか?

A ●●さん（以下、●●）「ケーキやクレープなどのお菓子や、ピザやチャーハン、お寿司にもトライしました。いつもレシピ本から自分たちで作りたいものを選んで、材料を買いに行って作ります。」

▲▲さん（以下、▲▲）「私たちの得意料理は、マフィン。前は作るのに時間がかかったけど、今では手際も良くなって、焼き時間込みで30分で出来るようになりました!」

Q ちなみに、失敗作はありますか?

A ▲▲「チョコレートを溶かす時、『レンジでやったら早いんじゃない?』という話になって、ホントにやったら焦げて、レンジから煙が出てきた時にはみんなで焦りました! ロールケーキを作った時は量が少なすぎたのか、薄〜くなっちゃって…巻く前にすでに破れていました。ひどかったのは、焼きそば。市販の焼きそばソースを使って作ったんですが、なぜかとても変な味になって、食べられませんでした…。」

●●「成功したのは、レアチーズケーキ!とっても美味しかった。最近は上達してきて要領もよくなったのか、失敗する確率はずいぶん減りましたよ。」

Q 楽しさを一番感じるのはどんな時ですか?

A ▲▲「毎年家庭部は文化祭でスコーンを作っていたのですが、去年は自分たちが大好きなマフィンを作ることにしました。準備期間は打ち合わせしたり何度も試作したりで、クラスとの掛け持ちも大変だったけど、私たちが作ったマフィンをみんなが並んでまで買ってくれているのを見て、すごく嬉しかったです!」

本日のメニューはバナナのロールケーキ。今日は大成功!

●●「保健所の指導の下、作るのは当日にしか出来ないので、マフィン約200個を作っては売り、作っては売りを、3回転しました。クラスでやってる飲食の出し物は、完成品を調理するだけですが、家庭部だけは材料を基に一から作るんです。その分大変だけど、売り切れた時の楽しさや喜びは、とっても大きいです!」

実は昔は家庭科が苦手だったけど今は楽しくなってきた▲▲さん、目分量で手早く料理が出来るお母さんのすごさを実感した●●さん。これからもみんなで楽しく、いろんな料理に挑戦して下さいね!

はぐくむ心

樟蔭中学校･高等学校 教諭 音楽科担当
生活指導部 副部長
杉山秀子（すぎやまひでこ）

【プロフィール】
●●●●年9月、大阪府堺市生まれ。
樟蔭中学校･高等学校、大阪音楽大学声楽科卒業後、樟蔭中学校音楽科の教員に。
高校生の娘と中学生の息子の母親でもある。趣味は家族でクルーズの旅をすること。
エーゲ海、アメリカ西海岸、東海岸など、世界の海で航海を楽しんでいる。
訪れた地で民族音楽を聞くのも楽しみのひとつ。そして音楽は世界をつなぐ共通語だといつも実感している。

音楽を通じて母校樟蔭で学んだことを継承しています

夕暮れ時にどこかの家から聞こえてくるピアノの音色に、幼いながらも心に感じるものがあったのでしょう、自分から「習いたい」と言い、5歳からピアノを始めました。

音楽に真剣に取り組むきっかけとなったのは、小学生の時に見た映画『サウンド･オブ･ミュージック』での『ドレミの歌』のシーンに出会った時。外国人の歌っている言葉（歌詞）はわからない、でもメロディーは私も歌えることから「音楽を通じてなら世界中の人と友達になれる。音楽は世界共通なのだ」と大きなロマンを感じたのです。

「好きな音楽を続けられる環境は樟蔭中学校･高等学校にある」と両親に勧められて進学。かけがえのない中学、高校時代となりました。日々の学校生活で、『何事にも一生懸命に取り組む姿勢、女性としての気配りや思いやり』を学ぶ機会が多くあり、そこから生涯の友達もでき、学校が大好きになりました。先生方は厳しい時もありましたが、ひとりひとりのことを考えてくださっていることが感じられるご指導で、樟蔭に入学するまでの『好きな音楽を続けたい』という思いから『好きな樟蔭で音楽の教師になりたい』という思いに変わっていきました。音楽大学受験を志すことを決めた時、親身になってご指導いただいた先生方と応援してくれた友達は、今の私に大きく影響している大切な宝物です。

教員として母校に戻ってきた時、後輩になる生徒達に『音楽を通じて、自己の在り方と感動する心』を伝えたい、それが『何事にも一生懸命に取り組む姿勢、女性としての気配りや思いやり』を継承することになると思いました。教壇に立って四半世紀が過ぎ、樟蔭も時代とともに大きく変わりました。しかし、たとえ女性の社会進出が盛んになり、女性が宇宙飛行士になる時代になっても、大切なことは変わらずに継承していきたい、これが伝統を受け継ぐことだと思います。

毎年この季節、校庭にしっかりと根を下ろし生命力あふれんばかりの豊かな若葉をつけている楠の木を見るたびに、「樟蔭の伝統は、いつの時代になっても継承してほしい」と願いつつ、『樟蔭校歌』を教えています。

新任教職員紹介

（順不同）

学芸　国文　講師
長谷　あゆす（はせ　あゆす）

専門は江戸時代の文学です。「古典って楽しい!」一皆さんにそう感じてもらえるよう、全力で努力します。

学芸　被服　准教授
藤本　純子（ふじもと　じゅんこ）

被服構成学分野を担当します。伝統ある樟蔭学園で、未来に通じる感性と知性を磨きましょう。

心理　臨床心理　教授
高橋　依子（たかはし　よりこ）

心の悩みを抱える人の多い現代、自分を取り巻く人々との輪を大切にし、助け合えるような教育ができればと思っています。

児童　児童　教授
神林　信之（かんばやし　のぶゆき）

このたびの異動で新潟からまいりました。週3回関屋で、週1回小阪で勤務します。よろしくお願いいたします。

児童　児童　講師
濵谷　佳奈（はまたに　かな）

学生のみなさんの知的探究心に応えられるよう、私自身も柔軟に学び続けたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

中学校　英語科　常勤講師
土橋　優子（つちはし　ゆうこ）

伝統ある樟蔭学園で勤務させていただくことに喜びを感じています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

幼稚園　専任講師
光井　千絵（みつい　ちえ）

子ども達が毎日楽しく園生活を送れるよう、頑張ります。よろしくお願いいたします。

幼稚園　専任講師
吉田　真由美（よしだ　まゆみ）

子ども達一人一人とのふれあいを大切にし、毎日楽しく過ごせる環境作りを行いたいです。よろしくお願いいたします。

人事異動

退　任（2011.3.31付）

●評議員
塩見愼朗
●役職
幼稚園／園長
塩見愼朗

退　職（2011.3.31付）

●大学･短期大学部／教員
一棟宏子
桶谷弘美
北村英子
塩見愼朗
谷垣伊太雄
西端幸雄
藤本員子
●大学･短期大学部／助手
野上昭子
●大学･短期大学部／教務助手
武田　恵
横谷早姫
●高校･中学校／教員
犬塚智子
北川隆子
西村　榮
森　展之
山口知子
山﨑長生
●高校／助手
亀谷裕子
●幼稚園／教員
池田祐子
津地扶佐子
●大学･短期大学部／職員
森川和彦（2011.2.28付）
友塚万理子

任　用（再任を除く）

●評議員
石川義之
●役職（再任を除く）
高校／副校長（併任）
永井利和
幼稚園／園長
石川義之
学園広報室長
塚本裕三

採用（上記の新任教職員紹介掲載外）

●中学校／教員
家本麻子
加藤秀典

異　動

●大学（学芸学部）／教員
呉　知恩
●高校／教員
稲田麻衣子
大村朋子
小俣真理子
下井田由美子
相馬宏臣
西村　充
東口明子
平井結香里
間柴　吏
●中学校／教員
古賀將友
後藤紀博
増井　崇
●学園（広報室）／職員
平木浩二
春口昌彦
佐々木傑三
杉本育美
淺岡紗代
菅　愛美
櫻井里名
●大学･短期大学部／職員
庶務課（小阪）
市川瑛子
村中孝次
庶務課（関屋）
杉中照代
阪下朝子
学術振興課（小阪）
井貝正世
岩田明大
修学支援課（関屋）
京谷智恵
学生支援課（関屋）
藤井佑実子
キャリアセンター（関屋）
服部和美
キャリアセンター（小阪）
山中達也
ITセンター（小阪）
瀧川雅之
ITセンター（関屋）
辰馬正彦

昇　任

●大学／教授
辻　弘美
●大学／准教授
井尻吉信
●大学／職員
修学支援課統括課長
下山貴宏

慶　弔

ご出産　おめでとうございます
●●●● 氏（大学･健康栄養学科准教授）には1月6日、長女 **●●●●** さんがご誕生です。
●●●● 氏（高校･社会科教諭）には1月26日、長男 **●●●●** くんがご誕生です。
●●●●氏（大学･キャリアセンター係員）には2月7日、長女 **●●●●** さんがご誕生です。
●●●●氏（中学校･家庭科教諭）には4月5日、長女**●●●**さんがご誕生です。

お悔やみ　謹んでお悔やみ申し上げます
●●●● さん（高校･社会科教諭●●●●氏のご母堂）　12月23日　92歳
●●●● さん（短大部･キャリアデザイン学科教授●●●●氏のご母堂）　1月15日　84歳
●●●● さん（大学･国文学科教授●●●●氏のご母堂）　1月21日　88歳
●●●●さん（大学･国文学科教授●●●●　氏のご母堂）4月12日　88歳

短期大学部 募集停止のお知らせ

このたび、学校法人樟蔭学園は、大阪樟蔭女子大学短期大学部の平成24年度からの学生募集を停止することを決定いたしました。

大阪樟蔭女子大学短期大学部の前身である樟蔭女子短期大学は、昭和62年に奈良県香芝市関屋の地に開学し発展して参りました。多くの短期大学が4年制大学へと移行する中にあって、平成12年に大阪樟蔭女子大学人間科学部の設置が認可されるのと同時に、樟蔭女子短期大学も大阪樟蔭女子大学短期大学部として再スタートを切り、高い就職実績に裏づけられながら多くの受験生に支持されて参りました。

しかし、わが国における少子化の進行や4年制大学志向の高まりによる短期大学志願者の減少により、日本の短期大学の約70%が定員を満たせず、経営状況が大変厳しくなってきております。このような現実の中で、本学においても様々な施策を講じて参りましたが、学生数の減少を止めることができず、高等教育機関としての社会的使命を担い続けることが困難であるとの判断をせざるを得ませんでした。

今後、在学生及び入学生の皆様の教育及び進路支援等につきましては、これまで通り万全を期して臨んで参ります。短期大学部は募集を停止いたしますが、大阪樟蔭女子大学は今まで以上に教育と学生支援に力を傾注し、女子大学として社会から愛される大学を目指し、努力する所存であります。

在学生･卒業生及び保護者の皆様、その他学校関係者並びに地域の皆様のご厚情に心から御礼申し上げますとともに、今後とも大阪樟蔭女子大学の教育活動に対しまして、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げる次第です。